

作新学院大学 ティーチング・ポートフォリオ

所属	氏名	作成日
人間文化学部心理コミュニケーション学科	下瀬川 陽	2024年5月1日

【責務】(何をおこなっているのか/担当授業科目その他)

前期

基礎ゼミナール

コンピュータリテラシー

プレインターンシップ

教育と社会

社会学概論

後期

ネット社会の人と組織

地域情報論

調査データ論

専門演習

通年

卒論指導演習

【理念】(どのような考えに基づいて行っているか)

個別具体的な知識を覚えるよりも、それらを使って考えること(の練習)を重視している。特に以下の点について意識している。

- 正解がない状態に慣れること
- 自らのこれまでの経験や日常で出会う事象を、様々な立場・視点から検討したりとらえ直したりしようとする
- 自身が自由に考えられることに気づき、その考えやアイデアを大切にしながら固執しないこと
- 他者も同様に自由に考える存在であることに気づき、その考えやアイデアを尊重すること

【方法】(その考えをどうやって実現しているか)

講義の課題の多くは、講義前から自身の考えがどう変わったか(変わらなかったか)を問うものとし、文章で答えることを求めている。回答にあたっては、正解がないこと、文章の上手さや講義を正確に再現することを求めているのではないことを、繰り返し確認している。

それらの回答を匿名化しシェアすることで、他者の考えにも触れられるようにしている。基礎ゼミナール・専門演習・卒論指導演習では、グループワークによって対話により考えを深めるための練習をしている。

【成果】(その方法を行った結果、どうなったか、どうだったか。自身の感想・具体的な成果物・学生からのコメントなど)

正解がないなかで、講義の序盤には、特に自分の考えを持つことやそれを文章にすることが苦手な学生において戸惑いが見られる。しかし、そのうち何人かの学生には、他の学生の回答を参照することで「こういうふうに考えればよいのかと勉強になった」「書き方がわかってきた」(いずれも学生の回答より抜粋)といった前向きな変化が見られる。

【目標】(今後どうするか)

フィードバックの方法を工夫することで、学生が自らの考えを認め、深められるよう支援したい。また、多様な学習スタイルに対応した教材や課題を提供することで、より効果的な学びの環境を整備したい。